

## 大分大学減災・復興デザイン教育研究センター(CERD)のご案内

本学の学内共同教育研究施設として、大分大学減災・復興デザイン教育研究センターを平成30年1月1日付で設置しました。大分県においては、近年でも「平成24年7月九州北部豪雨」、「平成28年熊本地震」、そして昨年発生した「平成29年7月九州北部豪雨」、「平成29年台風18号」、4月11日には中津市耶馬溪町金吉で発生した山崩れなどの大規模災害が発生しています。大分県でも多様な災害に対する平時からの備えなどの防災・減災対策の重要性が益々高まっており、地域における取組を総合的に支える仕組みづくりが求められています。

本学では、昨年6月に大分大学認定研究チーム(BURST:バースト)として、「減災・復興デザイン教育研究センター」(通称:減災センター)の認定が行われました。これまで県内各地で実施してきた防災教育やリスクマネジメントに関する支援を柱として、復興デザイン(事前復興)に関する調査・研究も実施しています。減災センターは近年発生した災害に関する調査・情報収集・提供を迅速に行っており、メディアでも大きく取り上げられたところでもあります。

大分県における地(知)の拠点として、防災・減災に関する地域貢献を果たし、またその機能強化も図っていくことが必要と考えられます。

そこで、社会との連携・協働を図りながら、防災・減災及び復興デザインに関する調査・教育・研究を持続的に進めると同時に、それらの成果を地域社会に還元し、災害をはじめとする多様なリスクに対して強かつしなやかな地域社会形成に向けた地域貢献・支援活動を行い、もって地域の安全・安心社会構築へ寄与することを目的とし、本学の学内共同教育研究施設として、減災・復興デザイン教育研究センターを設置することとなりました。

本センターでは、災害等に関する調査研究、防災教育、復興デザインなどを柱とし、学内外との連携を図りながら、前述の目的を達成するために活動を展開してまいります。



## 大分大学の寄附金制度のご案内

この寄附金制度は、企業や個人等の方から、教育研究の奨励を目的として寄附金を受入れ、大分大学の学術研究や教育の充実・発展に活用する制度です。寄附金は、大分大学の学術研究に要する経費、教育研究の奨励に供する経費及びその他大分大学の業務遂行に要する経費に充てられます。皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

ホームページURL【<http://www.oita-u.ac.jp/01oshirase/kifukinseido.html>】

### 問合せ窓口

#### 旦野原キャンパス

(教育学部、経済学部、理工学部、福祉健康科学部、福祉社会科学部研究科、各機構、センター等)

#### 研究・社会連携部 研究・社会連携課

〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700

TEL : 097-554-7377 E-mail:kenkyou@oita-u.ac.jp

#### 狭間キャンパス

(医学部、附属病院)

#### 医学・病院事務部 経営管理課総務係

〒879-5593 大分県由布市狭間町医大ケ丘 1-1

TEL : 097-586-5230 E-mail:kkansomu@oita-u.ac.jp

## 大分大学ホームカミングデー2018(速報)

- 日時 平成30年11月4日(日) 15:40~19:00
- 場所 大分大学学生交流会館 *B.Torii* 内特設会場
- 次第

### 第1部<交流会(B.Torii A会場)>

- ・学長挨拶
- ・同窓会連合会会長挨拶
- ・同窓生による講演会  
福祉社会科学部研究科同窓会 九峰会会員  
社会福祉法人とんとん常務理事 田中一旭氏  
演題(仮)【障がい児福祉政策について】
- ・各学部・研究科等現状報告

### 第2部<懇親会(B.Torii B会場)>

- ・各同窓会・同窓生との相互交流
- ・大学関係者との交流
- ※懇親会は3,000円の会費制

## 大分大学「同窓生との合同交流会」 in熊本2018(速報)

- 日時 平成30年11月17日(土) 16:50~20:00
- 場所 ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ  
熊本市中央区東阿弥陀寺町2番地  
(熊本市電祇園橋電停より徒歩1分)  
TEL:096-354-2111
- 次第

### 第1部<交流会(2F平安)>

- ・学長挨拶・同窓会連合会会長挨拶
- ・学部・研究科等現状報告

### 第2部<懇親会(1F若草)>

- ・各同窓会・同窓生との相互交流
- ※懇親会は3,000円の会費制

## 大分大学同窓会連合会役員

役員名	氏名	選出母体等
会長	秦 政 博	豊友会会長
副会長	松 尾 孝 美	翔工会会長
理 事	秦 政 博	豊友会会長
	石 川 公 一	四極会会長
	高 倉 健	玉樹会会長
	古 田 佳代子	桜樹会会長
	松 尾 孝 美	翔工会会長
	安 東 千 秋	九峰会会長
監 事	西 園 晃	大分大学社会連携担当理事
	高 井 道 晴	四極会副会長
	戸 高 孝	翔工会副会長

## 連合会平成30年度事業計画案内

- 6月1日—— 連合会機関紙発行
- 11月4日—— ホームカミングデー2018
- 11月4日—— 同窓生による講演会等
- 11月17日—— 同窓生との合同交流会in熊本
- 11月下旬—— 同窓生による企業紹介

## 名誉会長及び顧問

	氏名	選出母体等
名誉会長	園 田 和 孝	元会長(元豊友会会長)
顧 問	北 野 正 剛	大分大学長

# 大分大学同窓会連合会 機関紙 No.4

No.4

平成30年6月1日発行

〔事務局〕

大分大学産学官連携推進機構 研究・社会連携部研究・社会連携課内

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地 TEL:097-554-7513/FAX:097-554-7740

E-mail:dosoren@oita-u.ac.jp HP:<http://www.alumni.oita-u.ac.jp/>



## 【巻頭言】 緩やかな繋がり



豊友会・四極会・玉樹会・桜樹会・翔工会・九峰会の六つの同窓会が手を携えて、母校大分大学の発展に寄与することを目的とした大分大学同窓会連合会は、昨年も予定していた計画を円滑に推進して、同窓会員相互の融和と親睦の輪を繋ぐことができたと思います。申すまでもなく本連合会は、「卒業生等の交流、親睦を図る」こと、併せて母校「大分大学の発展に寄与する」ことを目的とした組織であり、主たる事業の一つである「大学との連携と協力」は、諸行事を通して北野正剛学長はじめ各学部長の先生方など大学幹部の皆様との間に、いっそう密な関係が構築されたところであり、会則に掲げる目的が達せられたことに対しまして、心より感謝とお礼を申し上げます。

地方大学の振興が政策課題になっている昨今ですが、「大分大学憲章」には、創造的な研究活動を通じて「知的成果を大分の地から世界へ発信すること、また地域拠点大学としてその「成果を地域社会に還元すること、国際的な拠点大学として「特に、アジア諸国との特徴ある国際交流を推進すること」など、大分大学の取り組む方向性が謳われています。この「憲章」の精神に沿った各学部の創造的な研究成果が諸方面に活かされて社会貢献に寄与していることを見聞するにつけ、同窓会としても大いに称揚拍手を催すところです。男女協同参画実現への取り組みである地元企業と連携しての「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」や、地域の防災・減

災に向けて「減災・復興デザイン教育研究センター」を学部を超えた常設の共同研究施設として設置ならびに産学・官の連携と情報活用の検討など、各学部学科が今日的な課題解決に能動的に対応している状況は、地域と共に歩む大分大学の面目躍如としたところが伺えて、誠に心強く思うところです。

また、全国第2位の教員採用をはじめ、看護師・保健師・社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験の合格も高位な成績を収めるなど、豊かな知識と技能を身に付けた有為の学生の育成も確かな教育力の証左であるといえます。「ウィーク・タイズ」(ゆるやかな・つながり)という言葉があります。仕事も生活の様子も違う。同じ学校の卒業だが年次が違うから年齢の差も様々。いつも会うわけではないが、会った時には何かしら懐かしさとか安心感などを覚える。緩やかな繋がりを持っている心的効果というべきでしょうか。同窓会という組織での繋がりとはそうした「ウィーク・タイズ」の役割を演じていると思います。そこで交わされる様々な情報のやりとりには、好む好まざるは別にして、自分とは違った意見や経験など豊富な人生知が盛られているはずですが、仕事のこと、生活のことなど諸事万端に思いがけないヒントが得られる場でもあります。「ウィーク・タイズ」としての絶好の機会である「ホームカミングデー」など諸行事の機会を通じて、会員相互の連携・親和が一段と深まりますよう一層のお力添えを願うところです。

母校の益々の発展と会員各位のご活躍、ご多幸を祈念して巻頭の言葉といたします。

同窓会連合会会長 秦 政 博

## ◆ OG・OB交流会



平成29年12月6日(水)、大分大学教養教育棟にて、「OB・OG交流会 第一線で活躍している先輩と話そう」が開催され、大分市役所採用担当者並びに大分大学教育学部卒業生として参加しました。

今回の交流会は、5つの企業が参加し、ブース形式で15分程度ずつ卒業生と在学生在が交流を行うもので、少しでも公務員という職業に興味を持ってもらい、将来の職業選択の一つとして考える良い機会になって欲しいと思い、公務員の仕事のやりがい・魅力、大分市の取組や勤務条件等の説明を行いました。大分市役所のブースには、14名の参加があり、どの学生も真剣な表情で話を聞く姿が見受けられ、就職活動に対する熱心さを感じました。これからの大学生活で様々な事を経験する中で、自分に合った就職先を見つけて欲しいと思います。

最後になりますが、大分市役所には、現在、大分大学の卒業生が378名在籍し、多くの先輩方が働いています。このような意味でも、働きやすい職場として、選択肢の一つになろうかと思っておりますので、ぜひ、大分市役所を就職先とし、採用試験にチャレンジしていただき、同じ市の職員として、働けることを楽しみにしております。

姫野 暢之(平成8年卒)

## ◆ 100周年の準備



今回は経済学部と四極会のPRをします。それというのも、4年後の2022年に経済学部が開学100周年を迎えるからです。

経済学部は1922(大正11)年、日本で8番目の官立高等商業学校として誕生した大分高等商業学校、いわゆる大分高商がスタートです。以来、1944(昭和19)年に大分経済専門学校、1949(昭和24)年に戦後の学制改革で今の大分大学経済学部となりました。

1969(昭和44)年、キャンパスは上野丘から旦野原に移転。上野丘時代は女子学生がケータでしたが、今や半数近くになりました。

一方、同窓会である四極会は、高崎山の古名である「四極山」(しはすやま)にちなんで名づけられました。古代、高崎山は四極山とよばれていて、ここから四極会という名前に決まったようです。

四極会は全国に45支部があり、卒業生は2万1000人を超えます。現在、100周年に向けて記念実行委員会を立ち上げ、着々と準備を進めています。記念式典は2022年6月を予定しています。

四極会理事 帆足 三郎(大学13回生)

## ◆ “四極山”について思うこと

大分大学の各学部のキャンパスより高崎山の日々変わらぬ山容が望めます。経済学部の同窓会は“四極会”の名ですから経済学部関係の方々をよくご存じだと思いますが、古来は高崎山のことを“四極山(しはすやま)”と呼んでいました。“四極”とはもともと山頂よりの見晴らしの良いことを意味し、高崎山のことではありませんが奈良時代の万葉集の古歌に出てきます。標高も650mほどでさほど高い山ではありませんが、登るには結構、きつい山です。南北朝時代には、山頂に城を築き、九州では唯一の北朝の拠点となり難攻不落を誇っていました。また、医学部医学科同窓会の“玉樹会”の名も、高崎山の木々の1本1本が立派な樹木と育つように人材も育てほしい、との意味も込められています。さて、前置きが長くなりましたが、県外に出張に出て帰ってくると、凝視するわけではありませんが自分の視界の一部に、高崎山が入ると得も言われぬ安心感に浸ります。鶴見や油布岳のような際立つ高峰ではなく、いつもと変わらない落ち着いた山際が遠望され大分市の西北方の風景に安定感を与えてくれます。大分大学も過去100年にわたり、各時代の県民に大学の存在、卒業生の活躍などで安心感を与えてきたわけですから、今後も、もちろん全国に対しての在学生在や卒業生の活動が発信されなければなりません。特に大分県民に対しての安心感に揺らぎがあってはなりません。そのためには、各学部の在学生在と卒業生が一体となり、さらにとすれば母体の異なる学部ゆえの連帯・協働が薄くなりがちだったほんの10年ほど前とは、大学の存在の意義が問われる時代の進行が超スピードとなってきた今日では、学部間の活発かつ綿密な連絡と連携が不可欠です。

それぞれのバックボーンとなる学問の発想が異なる研究者・学生・卒業生同士が、とにかく話し合いの場を多く持ち、おのおのの発想の違いを認めつつ、発展的に活動を高めていきたいものです。大学内外の変化がどんどん激しくなってきましたが、個々の大分大学への帰属意識を強めることで、大学そのものが四季を通じて変わらぬ高崎山の様に、県民に対しての安心感と同窓生を含めた大学関係者の安定感を維持ならびに進化に期待したいと思います。

玉樹会副会長 植山 茂宏 (2期生1985年卒)

## ◆ 活躍の場を大きく広げる同窓生

桜樹会では、昨年10月、平成29年度の総会時に茶話会を開催しました。当会名誉顧問のマーナ・豊澤英子先生がカナダからご参加くださり、福岡や熊本からの参加者や同窓生の子どもたちもおり、みなでお茶を飲みながらワイワイと話し、楽しい時間となりました。

参加者の中には、博士課程の学生、修士課程の修了生や専門看護師、大学教員、ジェネラリスト看護師、保育園の看護師、保健師、専業主婦、高級旅館の従業員など、様々な立場の人がおり、現在の悩みについて相談したり、今後のキャリアについて考えたりする機会になりました。また、参加出来なかった海外や日本全国で活躍する同窓生たちの活躍ぶりを聞くこともできました。参加者は20代~40代で、結婚や子育てとの両立、キャリアアップについて悩む世代であり、年齢や学年は違っても、同じ学び舎で学んだ者同士、活躍や悩みを話すことができ、自分自身の今後について考える機会になったようでした。

平成30年度は、海外で活躍する同窓生のシンポジウムの開催を企画中です。多くの同窓生のご参加をお待ちしています。

桜樹会会長 古田 佳代子

## 豊友会

## ◆ 大変革期を生きる

私たちを取り巻く環境は、人工知能やロボット、バーチャルリアリティ等、技術革新がめまぐるしく進展し、私が身を置く自動車業界においても、自動運転や電気自動車、コネクティッド、そしてシェアリングといった100年に1度の大変革に直面しています。持続可能な成長と社会貢献を見据えた人材を育成するために、時代に合わせて変化しなければならないという危機感があります。

2017年4月、工学部は理工学部へと変わりました。これは物事の本質を追求し、様々な事象を理解すること、そしてその知識を基に新しい技術を研究開発し、これまでとは非連続であろう時代が要求するモノづくりを行うためだと理解しています。大分大学同窓会連合会においても各学部の同窓会が融合することでよい方向に変化し、大分大学における人材育成の一助になればと期待しています。

翔工会大阪支部長 平岡 学

## ◆ 社会福祉士の仕事in 大分刑務所

私は現在大分刑務所で出所者の社会復帰を支援する社会福祉士として勤務しています。自立困難な矯正施設出所者の支援体制強化の取り組みにより、2004年から非常勤職員の社会福祉士の配置が始まり、2009年には全矯正施設に拡大しました。2014年より常勤職員の「福祉専門官」という新たな職種が設けられ、大分刑務所でも2018年から配置されることになりました。

矯正施設以外にも司法関係における社会福祉士・精神保健福祉士の配置が始まっており、保護観察所には社会復帰調整官として福祉士が常勤しています。検察庁には、社会復帰アドバイザーという福祉士がいて、起訴猶予や執行猶予で釈放見込みの被疑者・被告人に、福祉的支援を調整しています。また、各県毎にある地域生活定着支援センターの相談員も福祉士の配置が求められていて、特別調整という保護観察所が支援を認めた高齢者・障がいのある受刑者の出所後の社会復帰支援に取り組んでいます。

刑務所での社会福祉士の仕事は、高齢・障がいのある受刑者と面談して、支援を受ける意思があるかどうか確認して、支援を受ける同意を得るところからスタートします。出所後に医療や福祉に繋げるための受診や障がい者手帳の申請、障がい区分や介護区分の申請の援助をします。また、出所後の生活に必要な年金の調査や、生活保護の受給要件を整えますが、住民票がない、保証人がいない、記憶がない、身分を証明するもの、生活用品、お金も何も持っていない人など、社会でいう困難ケースが多くあります。

社会で医療や福祉にうまく繋がることができず刑務所に入ることになった人が、福祉的支援があれば再犯しないかという、受刑者の抱える課題は、そんなに単純なものではないと感じています。誰もが安心して暮らせる社会を実現する目的で「再犯防止推進法」が2016年12月に施行されました。国民の理解と協力を得つつ、多様な福祉・医療の支援者が長期的に重複的に支援することで、再犯防止をめざす役割の一端を担えればと考えています。

吉本 寛子(平成20年度修了)

## 九峰会

## 四極会

## 玉樹会

## 桜樹会

## 大分大学トピックス

### 株式会社アデランスと「新製品の製造及び販売権にかかる契約」を締結

平成29年12月14日に大分大学と株式会社アデランスによる共同記者発表会をアデランスADビル(東京都新宿区)で開催しました。これは、本学医学部とアデランス社との共同研究により、本学が特許を取得している「新規αリポ酸誘導体」を用いた抗がん剤脱毛の抑制効果を活用し、乳がん患者を対象とした臨床研究の結果に基づくものです。

まず、北野正剛学長から「乳がんへの抗がん剤治療の現状と副作用について」、続いて、医学部の猪股雅史教授から「『新規αリポ酸誘導体』を用いた抗がん剤脱毛の抑制効果について」の研究結果の発表等が行われ、その後、北野学長と津村佳宏アデランス社長による「『新規αリポ酸誘導体』を配合した製品の製造及び販売権にかかる契約の締結式」を行いました。



### 「第17回全国学生対抗円ダービー」において経済学部チームが総合順位1位を獲得

日本経済新聞社主催「第17回全国学生対抗円ダービー」において、経済学部チームが総合順位1位を獲得しました。

この「円・ドルダービー」は、中学校以上に在学中で、同じ学校に所属する3人以上がチームを組み、6・7月末の東京外国為替市場の円・ドル相場を予想し、2回の予想を通じて相場との差が最も小さかったチームを優勝とするもので、経済学部小笠原悟教授の指導のもと、4名の学生(小笠原ゼミ2年小城悠人さん、総本風真さん、加藤佑弥さん、河野良亮さん)チームがこのダービーに挑み、全国の52校397チーム中、見事総合1位を獲得しました。

このことにより、平成29年8月22日に、日本経済新聞の編集局経済解説部部長と記者の訪問を受け、経済学部長室で表彰式を行いました。なお、同時に行われたインタビューと合わせ、8月26日付の日本経済新聞の朝刊および電子版にも記事が掲載されています。



## 大分大学修学支援事業基金のご案内

大分大学は、経済的な理由で修学が困難な学生に対して支援を行うことを目的として「修学支援事業基金」を設立しています。基金は、下記に掲げる事業を通して学生を支援しています。皆様からの寄附金は、次の事業に活用されますので経済的に困難な後輩のご支援をお願い申し上げます。

- ・学生に対する奨学金の給付
- ・学生に対する授業料等の減免
- ・学生に対する海外留学等の支援
- ・学生が本学の補助的業務に従事する活動等に採用される機会の促進

ホームページURL 【<http://www.oita-u.ac.jp/08campus/syugakushienjigyokikin.html>】

### 問合せ窓口

大分大学学生支援部学生支援課奨学支援グループ

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地 TEL:097-554-6123 E-mail:seisiesi@oita-u.ac.jp